

## Y1-9

### 感染症アウトブレイクに対する「基礎保健型ERU」派遣の問題と課題

日本赤十字社和歌山医療センター 国際医療救援部

○藪本 充雄

2008年12月より、日本赤十字社はジンバブエにおけるコレラ・アウトブレイクに対する救済事業を展開した。地域の保健システムの改善、安全な水の確保への協力、衛生教育や診療所への支援など一定の効果を上げたものの、様々な問題点を残した。そもそも感染症のアウトブレイクに対して、「基礎保健・医療型」ERUのすべての資機材と、標準仕様としての人材派遣が必要であったかが根本的な問題であり、たとえば主なものとして、1) 医療行為に関与できない行動制限<sup>2)</sup> 輸送手段の提供に終始した任務体制<sup>3)</sup> 給水システム構築への不十分な対応<sup>4)</sup> joint deploymentにおける英語運用能力などが挙げられる。今後日本赤十字社が、感染症に対してもERUを展開する予定であるならば、そのシステムに従来と異なった考え方や構成が必要となってくるであろう。今回の救済事業から、将来への展望を提言する。

## Y1-10

### 香港紅十字会主催 第一回基礎保健型ERU研修会への派遣について

熊本赤十字病院 事務部 総務課<sup>1)</sup>、

日本赤十字社 国際部<sup>2)</sup>、

日本赤十字社熊本県支部<sup>3)</sup>

○石本 健太<sup>1)</sup>、宮田 昭<sup>1)</sup>、谷口 忠芳<sup>1)</sup>、

森崎 勝利<sup>1)</sup>、曾篠 恭裕<sup>1)</sup>、須本 大二郎<sup>1)</sup>、

麻生 陽子<sup>1)</sup>、鈴木 隆雄<sup>1)</sup>、

ペティート タク<sup>2)</sup>、田中 嘉一<sup>3)</sup>

現在、香港紅十字会（香港赤）は、日赤等が保有するERUの発動時、香港赤の保健要員を派遣する計画を進めている。その要員育成のため、国際赤十字・赤新月社連盟、ノルウェー赤の講師を招聘し香港で第1回目の研修会が開催された。日赤に対してはERU資機材等の派遣要請があり、当院から給水機材及び技術要員（＝The Blue Guys）を派遣した。香港赤は2006年のジャワ島中部地震以来、日赤医療チームと共に救済活動を実施、また当院で開催されるERU研修会にも参加する等、その活動は積極的であり、今回の研修は、同じアジアの姉妹社として連携を図っていく上で、非常に有用なプロジェクトであった。研修会では、川の水を浄水し生活用水や飲料水として供給するまでの一連の給水ユニットを組み立て、被災地における給水活動の実演指導を行った。平成13年の日赤ERU運用開始以降、当院は研究を重ねて、独自のERU資機材を開発し、これまで世界各地でその活動を展開してきた。今回の給水機材と技術要員に対する国際赤十字社・赤新月社連盟の評価は非常に高く、具体的に改善すべき点についても意見交換会を行うなど、日赤ERU発動に強い手応えを感じた。今後は将来的なニーズに対応できるよう機能の充実と、世界各国で対応可能なグローバル化を目指し、機材の更なる改良・開発を続けていく予定である。またその資機材を設営、操作する技術要員の育成は重要な課題であり第二世代の養成強化を行うと共に、拠点病院として熊本赤十字病院から機材と技術を、国内外に広く発信し共有していきたいと考えている。